

# 「小人数ゼミ」

## —能動的な学習をめざして

新入生は、小中高校の十二年間の長きにわたり授業を聞きノートするスタイルの、受動的な学習態度を叩き込まれて大学にやって来ます。社会人として必要な、自ら考え、まとめ、発表し、一方、人の考えに対し論理的な意見を声に出して返す、といった能力に欠ける者が増加する傾向にあるようです。

そこで、物理学科では平成五年度から、学生間ならびに教官と学生間の交流を密にできる利点に着目し、前述の能力を学生に習得していただくことを第一の目的として、小人数セミナーを実施しています。

現在のところ、物理学科の一年生四十名（一、二名の上級生を含む場合もある）以外に教育学部の物理教育の学生（ほとんどが一年生で十名程度）を受け入れていきます。したがって、ほぼ十七名程度がグループの人数になります。ただしグループ分けには、学生の第一希望を最優先いたしますので、五名程度のアンバランスはあります。

もう一つの目的は、新入生の時期から現代物理学の魅力に触れてもらい、物理に対する興味を維持していただくことです。

実施方法は、担当教官の裁量の範囲

です。ので一定したものではありません。教官も楽しめる内容でなければ、実が上まらないからです。

最大公約数で言えば、教材を決め、内容をまとめ発表し、議論ないし補正する、必要に応じて実験も行うといったところ。です。学科所有のビデオ器材を利用して、学生にビデオ教材を作成させる試みなども行ってきました。

今年度は、高エネルギー粒子物理学、低温物理学、宇宙物理学をテーマとします。三つのグループに分かれて学習しています。一グループに一教官が対応しています。

最近では、気軽に物理学の議論を、教官に持ち掛ける良い意味での生意気な学生が復活してきたように思われます。教官一人あたりの学生数をもっと減らせれば、もっと良い効果が生まれることでしょう。

理学部物理学科

鈴木孝至（すずき・たかし）

# 大学教育方法研究会

## —教養ゼミ実施に向けて

去る七月十二日に、教養ゼミ実施に向けた研究会が、総合科学部K211教室で開催された。有本章大学教育研究センター長より開会の挨拶の後、教養的教育検討委員会特別委員長牟田泰三先生より、広島大学における教養的教育改革の経緯と現状についての説明があり、続いて名古屋大学情報化学学部教授の中田賢先生により、名古屋大学における基礎ゼミナーについて講演が行われた。講演の内容は以下の通り。

名古屋大学では教養的教育改革の一環として、少人数ゼミナーの試みを行ってきた。一九八四年度には文系学生むけに選択制の人文科学ゼミナー、社会科学ゼミナーを開講し、八九年度には理系学生のために自然科学ゼミナーを開講している。

これらのゼミナーは、一九九四年に教養部が情報化学部へ学部改組され、教養的教育の全学責任体制へ移行したのに伴って、「基礎ゼミナー」に再編された。

基礎ゼミナーは、全学生必修で文系は通年四単位、理系半期二単位、一クラス二十五名程度の人数で、それぞれ五十八クラス、六十六クラスを開講している。

必修のため再履修の学生には、第一希望のクラスに優先的に受講を認めているが、現在のところ再履修者があふれるというような問題は生じていないようである。

それぞれの担当教官が、専門関連の分野からテーマを設定しているが、ゼミの重点は、「読み、書き、討論する能力の養成」というコモン・ベイスンクス教育に置かれている。ただし内容については、今後、より専門基礎に重点を置いたものにするかどうかが検討課題となっている。

さらに広島大学での少人数教育の経験として、総合科学部ですでに今年度から開設されている教養ゼミナーの取り組みについて、於保幸正先生から総合的な報告、さらに石倉康次先生から実際の経験の報告、また理学部物理学科の一年生ゼミの経験について鈴木孝至先生から報告があり、今後の教養ゼミ実施に向けての意見交換が行われた。

法学部

牧野雅彦（まきの・まさひこ）